滞留水の貯蔵状況（10月20日時点）

東京電力ホールディングス株式会社

2022年10月27日

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
- 建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1～4号機タンク貯蔵量
- 淡水化装置による処理により，RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- 蒸発濃縮装置は全台停止中

③5，6号機滞留水貯蔵量
- 構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量
- 除染装置停止中のため，廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約1,090 m^3	－※7
2号機	約1,140 m^3	－※7
3号機	約1,770 m^3	－※7
4号機	約10 m^3	－※7
合　計	約4,010 m^3	

（合計）:−110[m3/4週]，（合計）:−20[m3/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約5,400 m^3	T.P.−369
高温焼却炉建屋	約2,210 m^3	T.P.−422
合　計	約7,610 m^3	

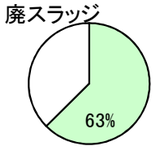
（合計）:−1040[m3/4週]（合計）:−1050[m3/週]

	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	907 m^3	1,200 m^3
SPT(B)	1,169 m^3	3,100 m^3

（合計）:+671[m3/4週]（合計）:+302[m3/週]

④廃棄物発生量

廃スラッジ



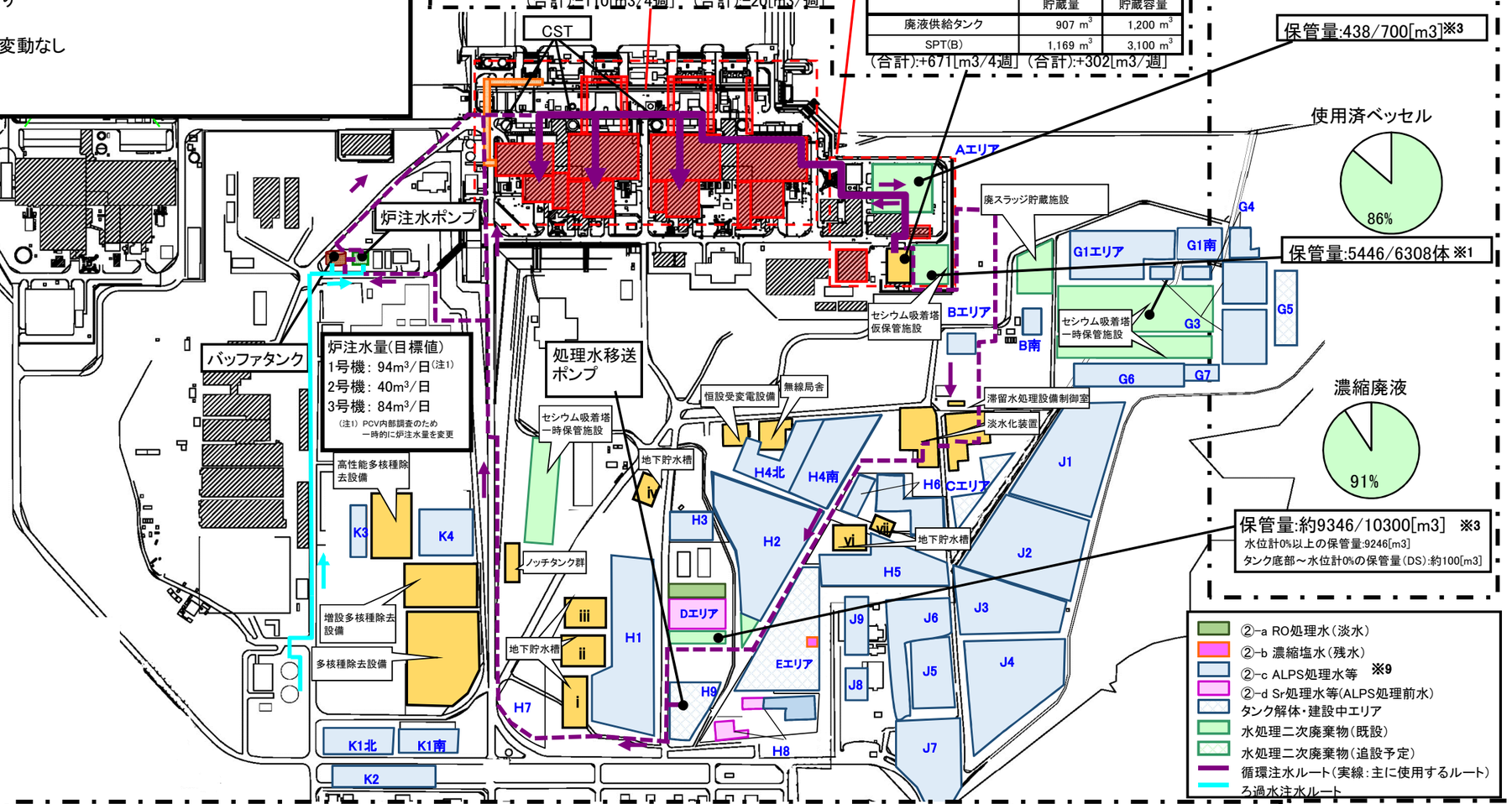
保管量:438/700[m3]※3

使用済ベッセル

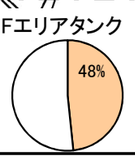
保管量:5446/6308体 ※1

濃縮廃液

保管量:約9346/10300[m3]　※3
水位計0%以上の保管量:9246[m3]
タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m3]



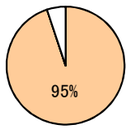
Fエリアタンク



水量:9523/19700[m3]　※2,3
−1151[m3/4週]/±0[m3/4週]
−175[m3/週]/±0[m3/週]

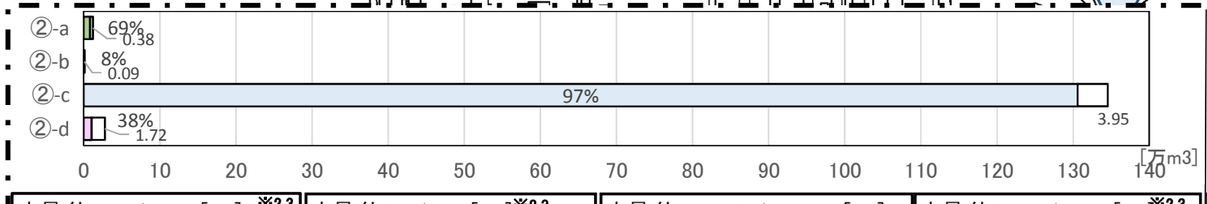
③5，6号機タンク貯蔵量

タンク総容量



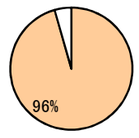
水量:約1334297/1405800[m3]※2,3
+2691[m3/4週]/±0[m3/4週]
+1336[m3/週]/±0[m3/週]

タンク貯蔵量合計（②＋③）



②-a	②-b	②-c	②-d
水量:約8233/12000[m3] ※2,3	水量:約100/1000[m3]※2,3	水量:約1306014/1345500[m3] ※2,3,4,6	水量:約10447/27600[m3]※2,3
水位計0%以上の水量:8133[m3]	水位計0%以上の水量:約0[m3]	水位計0%以上の水量:1303614[m3]	水位計0%以上の水量:10247[m3]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2400[m3] ※8	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約200[m3] ※8
+1176[m3/4週]/±0[m3/4週] +580[m3/週]/±0[m3/週]	±0[m3/4週]/±0[m3/4週] ±0[m3/週]/±0[m3/週]	+4570[m3/4週]/±0[m3/4週] +1162[m3/週]/±0[m3/週] ※9	−1904[m3/4週]/±0[m3/4週] −231[m3/週]/±0[m3/週]
②-a RO処理水（淡水）	②-b濃縮塩水（残水）	②-c ALPS処理水等	②-d Sr処理水等（ALPS処理前水）

1～4号機タンク総容量



水量:約1324774/1386100[m3]※2,3,4
水位計0%以上の水量:1321994[m3]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2780[m3]
+3842[m3/4週]/±0[m3/4週]
+1511[m3/週]/±0[m3/週]

②1～4号機タンク貯蔵量

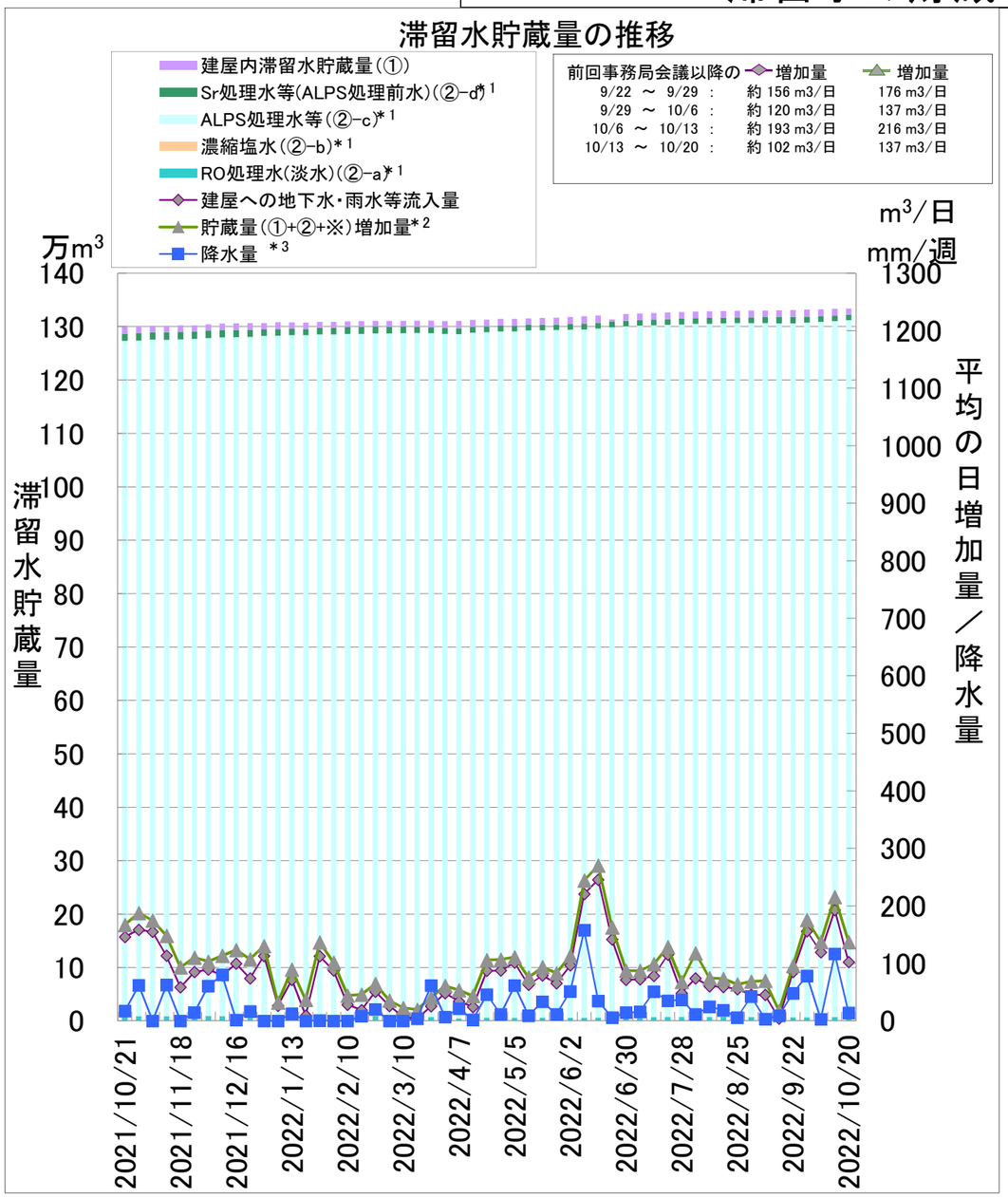
水量:約1338470[m3]
+3363[m3/4週]
+743[m3/週]
※5

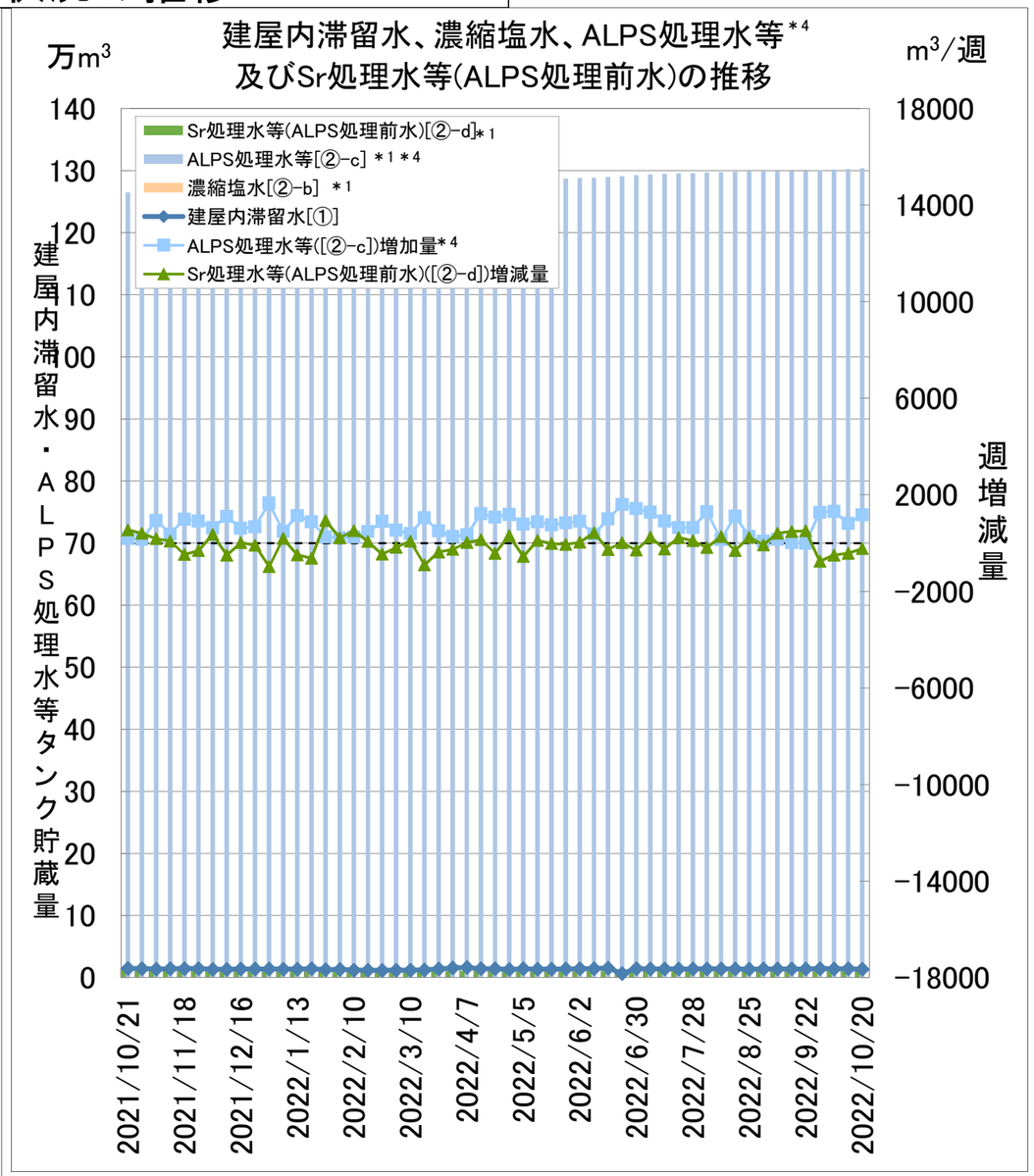
建屋内貯蔵量
＋
1～4号機タンク貯蔵量
（①＋②）

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセル含む
※2 装置稼動中につき水位が静定しないため参考扱い
※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す（タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記。端数処理上、水量の総和と異なる場合がある）
※4 多核種除去設備等（ホット試験中）の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5 ｳｪﾙﾎﾟｲﾝﾄ・地下水ﾄﾞﾚﾝ(約80m³/週)、その他移送量(約140m³/週)の合計約220m³/週を含む
（端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある）
※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
※7 1～4号機T/Bは水抜きが完了しているため、水位を「-」表記
※8 フランジ型タンクに貯蔵するSr処理水の処理完了（2018/11/17）フランジ型タンクに貯蔵する多核種除去設備等処理済水の移送完了(2019/3/27)。引き続き、残水処理を進める観点から、以後、フランジ型タンクのタンク底部～水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める
※9 多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)

東京電力ホールディングス株式会社
2022年10月27日

滞留水の貯蔵状況の推移





①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B)）
②：1～4号機タンク貯蔵量（〔②-aRO処理水(淡水)〕＋〔②-b濃縮塩水〕＋〔②-cALPS処理水等*4〕＋〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕）
※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

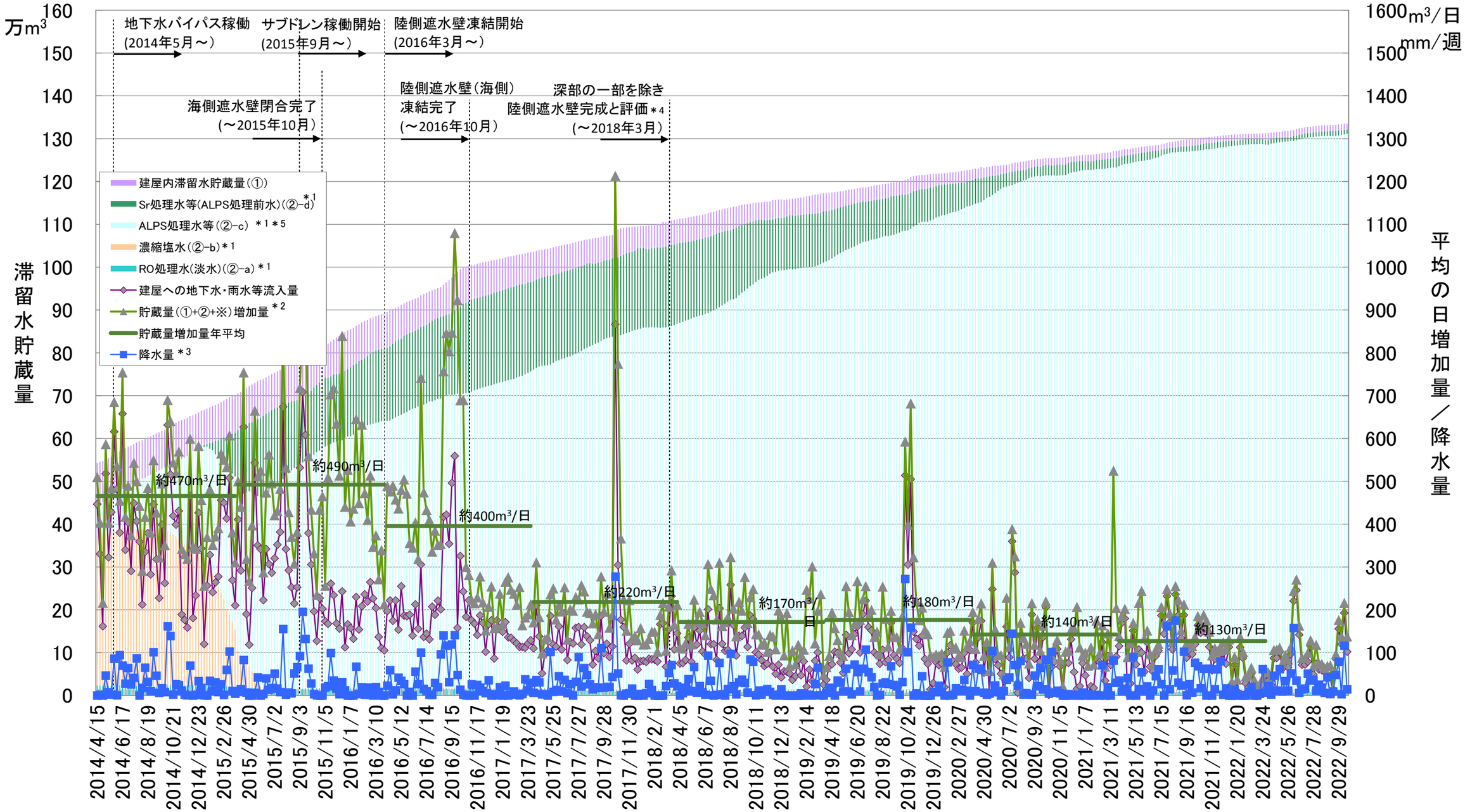
＊1：水位計0%以上の水量
＊2：貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り汚染水発生量の算出方法に見直し。(2018/3/1見直し実施)
〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)
＊3：2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
＊4：多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)

多核種除去設備等の稼働状況

設備	期間処理水[注1,4]		定格処理量
	[m3/週][注2]	[m3/4週]	[m3/日]
既設多核種除去設備	1,151	5,657	750以上
増設多核種除去設備	245	245	750以上
高性能多核種除去設備	0	0	500以上
高性能　検証試験装置	0	0	50
合計	1,396	5,902	

注1）処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。
注2）処理量(1,396m^3)の内訳はRO濃縮塩水処理量 0m^3、Sr処理水処理量 1,368m^3、処理水処理量 0m^3、
薬液注入量他 28m^3[注3]
注3）処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量（4m^3）を含む。
注4）処理水増加量を基にした算出方法から、設備の出口積算流量計を基にした算出方法に、
2020年11月26日より見直し。

滞留水の貯蔵状況の推移（長期グラフ）



①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B)）

②：1～4号機タンク貯蔵量

（〔②-aRO処理水(淡水)〕＋〔②-b濃縮塩水〕＋〔②-cALPS処理水等〕＊5＋〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕）

※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

＊1：水位計0%以上の水量

＊2：貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り汚染水発生量の算出方法に見直し。(2018/3/1見直し実施)

［（建屋への地下水・雨水等流入量）+（その他移送量）+（ALPS薬液注入量）

＊3：2018/12/6まで浪江地点の降水量を使用していたが、2018/12/13より1F構内の降水量に変更

＊4：深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了

＊5：多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)